

お便り紹介



A様からのお葉書とクリスマスカード

急に秋になってしまいました。
天変地異… 天に祈り自分に戒め、過ごしています。
二十三日は、楽しく、有意義に、松本の介護シンポジウムに出られました。
一日中「サンダル」を身につけクライニングチェアも使用させていただいて、お話に集中できました。
帰宅した頃一寸「靴とのすれ」がありました。勿論我慢出来る程度です。
このままずっと履き続けられると思います。
いろいろありがとうございました。

今年はサンダルの事で、一方ならぬお世話になり、ありがとうございました。
私は、寒さに向けて幾分不自由になりつつありますが、サンダルとスリッパ両方をうまく使いわけつつ、何とか過ごしております。
皆様、意義深くお過ごし下さいませ。
イラク派兵案じつつ。

B様からのお手紙

拝啓 今年は台風や地震と天変地異の年にて驚いております。 先日は貴店にお伺いし、大変お世話になりました。有難うございました。 殊に足のみならず、歩行をご覧戴き、現在履いている靴の踵外側を補正下さいましたこと、大変具合よく感謝申し上げます。	頂戴しましたパンフレット「子供の足の本」、「ERDE Zeitung」の数々も拝見させていただき、………… 補正靴に情熱をかけてお出でのお姿がよく分かりました。 今後何卒宜しく申し上げます。 ………… お願いしました靴と足底板、急ぎませんが宜しくお願いします。 敬具
--	--

福島県にお住まいの内科医で、やはり同じく脊椎管狭窄症の73歳の男性の方です。

B様は、すでに補正靴を履いて慣れておられましたので、歩かれる様子も拝見し、少しお直しをさせていただきました。

C様からのお手紙

先日は中敷きをありがとうございました。
購入した時から気持ちよきはかせていただいていたのですが、補正の中敷きのおかげで、まるで自分の足の一部のようにぴったりになり、歩くのが楽しくてわざと遠回りしてしまいたくなるほどです。
次は、足底板を直して下さいますようお願いします。
今や足底板はなくてはならないものになっています。
良いものをつくっていただいて本当に感謝しています。

神奈川県にお住まいの40歳の主婦の方です。
4年前から足底板を愛用して下さっています。
初回ご来店時には、足の疲れとO脚、腰痛を訴えておられ

山梨県にお住まいの、87歳になられる内科医の女性の方です。
(私事ながら、ずいぶん以前になりますが、家族で患者としてお世話になっていた先生です。長年関わってこられた消費者運動や医師としての経験を生かして、常に前向きに日々を送っておられます。)

脊椎管狭窄症を患われ、前傾姿勢が強く、また、外反母趾で足趾の変形が大きく、趾が重なっているために、ウオノメに悩まされておられました。

今回、ご希望により、室内用の履物として、サンダルを作成させていただき、ご自宅用に、また、デイサービスの時などの屋内用に、お使いいただいています。

ご病気から体のバランスも悪くていらっしゃる上に、筋力低下もあることから、靴の高さの微妙な調整が難しく、ご満足いただくまでにファックスや電話でやりとりしながら、何度かお直しをお受けしました。

今では愛用のサンダルになられたご様子ですね。
A様のような場合は、補正靴を履くことにより体のバランスが変化するため、特に筋力の弱い方は、慣れるまでに時間もかかりますし、また、細かいお直しが必要なこともよくあります。

初回のお渡しは「仮合せ」と思っていたが、よりぴったりとご自分のものになるよう、あきらめず、お直しを遠慮なくお申し付け下さい。

ご満足いただけただようで、嬉しく思います。
ご自分の患者としてのご経験から、医者の仕事の有り様に厳しいご提言をなさっておられる現役のお医者様です。
お元気で活躍下さいますよう。

でしたが、その後のチェックの度に症状が改善し、O脚も見違えるほどの変化ぶり。

「他に何もしていないので足底板のお陰」とのことです。3人の可愛いお子さんたちの子育てにお忙しい方ですから、たくさん足を使っていられっやるのが、効果を早めたかもしれません。

今回は、新しく開発したコルクフットベッドに補正をし、専用のウォーキングシューズに入れて履いていただくことになりました。気に入っていただけただようですね。

コルクフットベッドは、履くほどに足になじむ素材ですので、足底板とはまた違った履き心地だと好評です。

D様からの年賀状

おめでとうございます。
本年もよろしくお願ひ致します。
下條医院の患者さん、靴を履かれて、「大変体の方も良くなって来ているヨ!!」などなど、話題になって来ましたヨ!!
患者さんの方々が、エルデさんの来られる日を待っていますヨ!!
私はとてもうれしいです。
おかげ様で下條医院の患者さんが元気になるんですものね!!
これからもよろしくネ。

福岡県立大学に招かれました

昨年9月、福岡県立大学の生涯福祉研究センターから、福祉用具研究会の講師としてお招き頂きました。

田川市にある福岡県立大学は、人間社会学部と看護学部の二学部に加え、生涯福祉研究センターを有しています。

このセンターは、「地域に開放され、地域に貢献できる研究」という県立大学の開学理念を実現するために設立された研究機関で、「特に筑豊地区の地域社会の成熟と発展とに向けた研究・地域支援サービス・情報発信活動」を行っているそうです。

私たちに与えられたテーマは、「足と靴の問題性と福祉拡充運動」ということで、日本における「足と靴の問題」の

下條整形へ定期的に伺い始めて最初に拝見させていただいた患者さんです。

変形性膝関節症で治療に通われている74歳の女性で、踵骨が内反し外側荷重になられていましたので、足底板をお作りしました。

病院でのリハビリに加え、毎日よく歩かれることもあってでしょう、半年後のチェックでは目に見えて改善されていました。

大変喜んで下さり、「良い物は皆に教えなければ」と、多くの患者さんに勧めて下さっています。

特殊事情とドイツ整形外科靴技術の紹介、さらに、様々な足部・脚部の疾病や障害についての具体的な症例と対応例、そして、この技術を根付かせることの日本の福祉拡充にとっての意義、等々、かなり広範囲な内容になりました。
2時間以上の話でしたが、数十人の参加者が大変熱心に聞いて下さり、終了後も、多くの方が、個別に様々な問題意識からの質問をして下さいました。
旧産炭地-筑豊の活性化のために、「福祉用具の里構想」を掲げて奮闘されている皆さんの今後の活躍に、何かお役に立てばうれしいと思っています。

エルデさんの靴は魔法の靴!?

福岡県 中藤広美

私がエルデさんと出会ったのは2004年の秋、福岡県立大学福祉用具研究会でエルデさんに足と靴のお話しをしてもらうように決まっていたのでした。

渡辺さんご夫妻に足のお話や靴と足の関係のお話などを聞かせていただくうちに、自分では靴のことは気をつけているつもりでも、実際はほとんど知識がなく、気をつけようにもその術を知らないという事を知りました。

昨秋上京した際に、お店まで行って靴を購入しました。それから私の生活がガラリと変わったのです。デスクワークのうえ、車通勤の私はほとんど歩いていない生活を送っていましたが、「せっかく良い靴に出会えたのだからしっかり歩くぞ!」という気持ちが不思議と沸き起こってきて、今では一日1万3千歩前後を確実に歩くようになりました。

同僚はそんな私の変わりようを見て、「その靴は魔法の靴?!」なんて言っています。(笑)

今では歩きたくてたまらないのです。通勤はもちろんの事、ちょっと銀行やコンビニへ行くのも車だったのに、今ではわざわざ遠回りをして歩いて行っています。

きっと私の足の状態に合った靴だからこそ、こんなに歩こうっていう気持ちが湧いてくるのでしょうか。靴を履いただけなのに、気持ちまでもかわるなんて不思議な体験をしています。

そうそう、歩き始めたおかげでダイエットにもなり良い具合に体重が減ってくれています。良いもの、本物との出会いはこんなにも人を変えてくれるのですね。

中藤さんは、私たちの講演を企画して下さいました福岡県立大学生涯福祉研究センターの助手ですが、こんなうれしい投稿を頂きました。

中藤さんは、福祉用具研究会が中心になって立ち上げた地元のNPO法人が、10月の東京国際福祉機器展へ出展する折に、エルデを訪ねて下さいました。

また、12月には、東京へ勉強に来られた折に、再度訪ねて下さいました。

そして、一度目はご自分用に補正した靴を、二度目は日本人用に開発された標準靴を購入して下さい、現在、違いを体感して下さいます。

近々、ご報告が聞けるのではないかと楽しみにしています。

中藤さんたちは、筑豊地区で現在取り組まれている「福祉用具の里構想」の中で、高齢者や障害者の健康増進にも役立つ健康靴を「福祉用具の一環」として開発・製造する事業の展開の可能性を探られています。そのためにも、まずは自分で体感しなければ、との思いで何度も足を運んで下さっているのです。

私たちも、筑豊の活性化のためにできるだけのお手伝いをしたいと考えています。